

マーケット概況（2023年12月）

12月の債券相場は、米国債金利が上昇した流れを引き継ぎ売られて始まり、10年372回債は0.690%で始まった。ただ、米国における利上げは打ち止めとの観測が高まり、米国債が買われたことで国内の債券相場も上昇に転じると、やや不調だった10年債入札後も売りは限定的で徐々に騰勢を強めた。しかし、7日に実施された30年債入札はテールが現行の入札方式となった2007年4月以降で最大となる1円20銭と不調に終わり、相場は一転して大きく売られ、8日には10年372回債は0.800%まで利回りが上昇した。売り一巡後は買い戻しが入り、さらに日銀関係者が「マイナス金利解除を急ぐ必要は無い」と述べたことが報じられると、相場は底堅く推移した。その後は、5年債入札を順調に通過したことで再度上昇に転じ、19日の金融政策決定会合も現状維持となったことで一段高となり、20日に10年372回債は約5ヵ月ぶりの水準となる0.550%まで利回りが低下した。月末にかけては、残存15.5年超39年以下の流動性供給入札の結果が不調となったことや、1月以降の超長期債の買入オペ予定回数が減少と発表されたことから、イールドカーブはスティープ化しながら上げ幅を縮小し、10年372回債は0.620%で取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は1日の3M1198回債入札で最高落札利回り-0.1507%と在庫余剰感から前回債より上昇したが、15日の3M1201回債入札では積極的な玉確保姿勢が先行し-0.16%台と想定よりも強い結果となった。22日の3M1203回債入札は-0.19%台での着地となったが、年末越えの担保玉確保の動きが一服するとオファー優勢となった。月末の取引では-0.136%まで売られたが最終的には-0.170%~-0.210%が出合った。6M1199回債入札は最高落札利回り-0.1282%となり、セカンダリーで-0.160%まで低下した。1Y金利は翌日に日銀金融政策決定会合を控えた1Y1202回債入札で、マイナス金利解除に対する警戒から前場に+0.001%が出合が見られ、最高落札利回りも0.000%と2015年3月以来の水準まで上昇した。

<一般債市場>

12月の定例地方債は、10年債・5年債のスプレッドはいずれも前月から横ばいの国債カーブ対比+9.0bp、+10.0bpで条件決定された。金利水準の低下や国債金利のボラティリティの高さなどから10年債は消化を不安視する向きがあった一方、5年債は国債償還見合いや短期化ニーズから無難に消化された。SDGs債関連では、千葉市が地方債として初となる10年ブルーボンドを起債したほか、三菱電機が同社初のグリーンボンド、みずほリースが同社初のサステナビリティリンクボンドを起債した。社債発行額は年末に向けた駆け込み的な起債等が積み上がり、10,690億円と前月から小幅増加した。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#372	0.690(1日)	0.550(20日)	0.800(8日)	0.620(29日)
#371	0.680(1日)	0.540(20日)	0.775(8日)	0.605(29日)
#362	0.480(1日)	0.355(20日)	0.580(8日)	0.390(29日)
#163(5Y)	0.255(1日)	0.190(28日)	0.385(8日)	0.215(29日)
#186(20Y)	1.445(1日)	1.245(20日)	1.575(11日)	1.385(29日)
#1193-#1199 TDB(6M)	-0.130(7日)	-0.160(8日)	-0.130(7日)	-0.160(8日)
#1198-#1203 TDB(3M)	-0.170(1日)	-0.220(22日)	-0.136(29日)	-0.210(29日)